

## 適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 【適正利用・エコツーリズム検討会議の仕組み及びWGの運営】

本WGは、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で2010年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催している。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」である。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進している。その基本原則は次のとおり。

○遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上

○世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供

○持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリングを毎回議題にしている。なお、長期モニタリング及び既存ルールの見直しなど、WGとして検討すべき課題の増加に伴い、専門家同士の意見交換が必要と判断し、2018年度から適正利用・エコツーリズムWGを単独開催している。

### <コロナウイルス感染拡大を受けた知床観光の状況について>

2019年度2月末の冬季流氷シーズンより徐々に影響が出はじめ、2020年度以降も継続している。2021年度も前年に引き続き5～6月の緊急事態宣言発令時は観光関連サービス業（観光船、ガイド、土産など）の営業を自粛し、8月～9月の緊急事態宣言等発令時は両町とも感染防止策を徹底したうえで観光関連サービス業を継続した。

各町とも補助金等による経済支援や、現状把握に向けた各種調査等を実施している。今後の感染予防や観光客の受け入れについては、新たな生活様式への変革を前提として、国や道、各業界の方針に基づいて行っていくという共通認識に立っている。

## 1. 知床エコツアーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、検討がなされた 2 件の状況は以下のとおりである。また、過去の提案も含めた検討状況は別紙 1 のとおりである。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	羅臼町観光協会	半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして 2016 年の検討会議で 5 年間の試行を合意したが、2021 年第 1 回検討会議において、2020 年度までの総括報告と今後のツアー実施について議論する予定。利用を継続するときには、今後の利用を保証する管理の提案が必要である。
厳冬期の知床五湖エコツアー事業	斜里町観光協会	冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで、静寂性を保って冬期の知床五湖をまわるツアーを実施している。 2020 年度は 1 月 25 日から 3 月 10 日までの 45 日間（例年より 15 日間短縮）で実施。コロナ禍で激減を想定していたが、斜里町のアクティビティクーポンの効果などで若者の利用が増加し、参加者は計 789 名（前年度比 41.2%）であった。

## 2. 個別地域における取り組み状況と課題

### ○知床五湖における利用調整地区制度の運用

昨年度より継続して、植生保護期（レクチャーのみ）とヒグマ活動期（ガイド同行必須）の 2 つの制度で運用。コロナウイルス感染拡大防止策として、1 回のレクチャー受講者数を半数に制限、必要に応じて屋外にレクチャーブースを設けるなどしている。また、地上遊歩道の再整備工事の 3 ヶ年目を実施予定。

### ○カムイワッカ地区における取り組み

知床五湖ゲート～カムイワッカ区間において、8 月 7 日～16 日の 10 日間でマイカー規制を実施。今年度から新たな試みとして、5 月 1 日～4 日まで、マイカー規制を伴わないシャトルバスも運行した。ホロベツゲート～カムイワッカ区間においては、昨年度から試行的に実施している魅力を付加したシャトルバスの運行を今年度も 10 月 1 日～3 日に実施予定。

また、カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用について、7 月に試行事業 A（ガイド同行型）を実施。試行事業 B（個人利用型）は、10 月のシャトルバス期間中に 1 日 100 名を上限に実施予定。

## ○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働の保全活動

例年同様、知床ウトロ海域環境保全協議会で企画実施する「海鳥 WEEK」として、知床世界遺産センターでのケイマフリ展示や観光船・宿泊施設での海鳥トークを実施。加えて、知床自然センターや周辺の飲食店とのコラボ企画を実施し、地域内での連携を強めた。さらに、今年度から新たに Twitter と Instagram の運用を開始し、普及啓発・情報発信の強化を図った。課題であった活動資金源の確保の面で、海鳥ハンドブックのほかに新たにグッズを作成し、ネットでの販売ルートも開設予定。

## 3. 主な検討事項や今後の予定

### ○検討会議

- ・知床エコツーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツーリズムの推進を図るため、引き続き年2回実施予定。
- ・ヒグマ対策連絡会議や国立公園等の自然を活用した滞在型観光コンテンツ創出事業については、必要に応じて情報提供を継続し、知床のエコツーリズムの動向を共有する。
- ・コロナウイルス感染拡大による影響や防止策等について検討会議で共有し、今後の知床におけるエコツーリズムのあり方を議論する予定。

### ○WG

- ・長期モニタリング等について科学的助言を得るため、引き続き年2回実施予定。
- ・評価項目「Ⅶレクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること」について、モニタリング項目「No. 19 適正利用に向けた管理と取組」「No. 20 適正な利用・エコツーリズムの推進」及び「No. 21 利用者数の変化」をそれぞれ「利用圧」と「管理努力」、「環境影響」に対応させ、3項目の関係性や相互作用に着目して一体的・総合的な判断を行う。特に「管理努力による環境負荷の軽減」の観点を重要視しながら、評価項目内容が適切に実施・評価されるよう科学的助言を行う。
- ・上記に関係し、評価項目Ⅶにかかる評価基準（文言等）等の見直しを科学委員会に提案する。
- ・北海道運輸支局をはじめとする地域外の資源利用者とのコミュニケーションを図り、北海道観光局等を中心に、民間関係者も含めた知床の適正な利用について検討する。

上記2会議とも、ネット接続による遠隔参加を含めた開催を進める。